

## 14 . 連合創薬医療情報研究科

連合創薬医療情報研究科の教育目的と特徴	・ 14 - 2
「教育の水準」の分析・判定	・ . . . . . 14 - 3
分析項目 教育活動の状況	・ . . . . . 14 - 3
分析項目 教育成果の状況	・ . . . . . 14 - 12
「質の向上度」の分析	・ . . . . . 14 - 19

## 連合創薬医療情報研究科の教育目的と特徴

### [目的]

本研究科は、創薬をテーマとして先進的な生命科学・医療情報学を学術基盤とすることにより、薬学、医学、工学、などの異種学問領域を連携統合した教育研究を推進する。こうした取り組みを通して、高度な専門性と先見性、柔軟な発想を有し、21 世紀の医療、医学、生命科学を担う最先端の領域で活躍できる人材の育成を目指す。

### [特徴]

本研究科は、創薬で大きな業績を持つ岐阜市立岐阜薬科大学と医学を含む生命科学や工学に広い人材を有する岐阜大学が連合し、さらに国立研究開発法人産業技術総合研究所(以下、AIST)、国立研究開発法人理化学研究所(以下、理研)、(独)医薬品医療機器総合機構(以下、PMDA)、国立研究開発法人国立健康・栄養研究所(以下、健康・栄養研究所)及びアステラス製薬(株)との連携を実現している。これら連携先との協力関係のもとで、本研究科は、最先端の創薬や医療に携わる研究者や技術者、あるいは医薬品、化粧品、食品を扱う企業や行政機関での研究・審査を行うことができる人材の養成を目指しており、日本でもユニークな教育機関である。本研究科で申請可能な学位は複数種あり、創薬科学専攻で博士(工学)又は博士(薬科学)、医療情報学専攻で博士(薬科学)又は博士(医科学)の学位を取得することができる。

### [想定する関係者とその期待]

医療機関、創薬関連企業等からは、ゲノム創薬研究を推進できる研究者の育成と各種医療情報を活用した個別化医療へ対応できる技術者の育成、そして、その両者が生み出す情報を統合することにより地域医療へ貢献できる人材などの育成が期待されている。したがって、本研究科へ入学を希望する学生は社会人学生が多く、職に就きながらも現職での研究開発を進展することができる就学環境が在学学生や受験生並びにその家族から求められている。また、外国人留学生からの入学希望も多いため、国際的な教育システムの構築も必要とされる。これらに加え、岐阜薬科大学が平成 22 年度から岐阜大学キャンパスにおいて教育研究活動を開始しており、地域社会からは本研究科が岐阜地区における生命科学教育研究拠点となることが期待されている。

「教育の水準」の分析・判定

分析項目 教育活動の状況

観点 教育実施体制

(観点に係る状況)

(1)教育組織の編成

本研究科は、別添資料1-1-1に示すとおり、岐阜大学と岐阜薬科大学及び連携機関が連合・連携し、異なる専門分野の教員の優れた研究業績や知識、情報の共有を基盤とする教育体系を構築している。本研究科の専攻構成については、表1-1-1のとおりである。

これに加え、研究科の発足当初から AIST 及びアステラス製薬(株)、平成 22 年度から理研を連携機関として定めるとともに、平成 24 年度からは PMDA、平成 25 年度からは健康・栄養研究所との提携(協定)も成立した。これら内外の教育研究組織を有効に活用することにより、創薬最先端分野に関する技術手法の開発や、個別化医療、予防医学を目指した創薬研究手法などについての広範囲な学修研究を可能にする教育研究体制を実現している。

表1-1-1 研究科の構成

課程	専攻名	研究領域	教育研究の目的
博士課程	創薬科学	生命分子科学	従来の化学的手法に加えて、ヒゲノム情報や構造生物学などを活用し、生物学的・遺伝学的手法による創薬の基盤的な教育研究及び分子・細胞レベルから個体レベルまでの機能解析による現代疾病の診断法などの開発に関する教育研究を行う。 これにより、製薬・バイオ関連企業で創薬研究に携わる技術者並びに大学や研究機関で創薬研究に携わる創薬研究者を養成する。
		システム生命工学	
	医療情報学	生命情報	多岐に亘る研究領域に横断的に、かつ新規研究領域の創設を必要とする個別化医療・予防医療に必要となる膨大かつ患者毎の詳細な臨床情報を解析する手法・技術の教育研究及び医薬品の生体応答や病態制御の解析・評価に関する教育研究を行う。 これにより、個別化医療、健康科学など最先端の医療技術の現実化に向けた研究手法等を習得した高度医療専門スタッフ並びに食品、化粧品などの関連企業や大学、行政機関で薬品の検証に携わる技術者及び研究者を養成する。
		生体制御	

(出典:研究科ホームページ)

(2)教員組織の編成

本研究科では工学部生命工学科、医学系研究科・医学部、保健管理センター、生命科学総合研究支援センター、医学教育開発研究センターそして岐阜薬科大学の教員のうち、本研究科の博士課程担当資格を満たす教員(兼務教員)が教育研究に参画している。これらに加え、平成 21 年 4 月には専任教授 1 人を採用し、平成 23 年 4 月からは人獣感染防御研究センター所属であった教授 1 人が本研究科へ配置換となり、専任教授が 2 人となった。

また、連携機関からの客員教員として、AIST より客員教授 1 人客員准教授 1 人、理研より客員教授 2 人客員准教授 1 人を配置している。さらに、PMDA と健康・栄養研究所との協定締結に伴い、客員教授を各 1 名(計 2 名)配置した。

専攻別教員数の内訳を表 1-1-2 に示す。専任及び兼務教員は、全員が研究指導資格を持つ。教員一人当たりの学生数は 1.1 人で万全な教育体制が構築されている。

客員教員は両専攻で 7 人である。また、女性教員は兼務教員として 3 人が在籍し、教員全体で 13.0%、教授のみでは 18.8%と高い女性教員比率となっている。さらに、外国人の非常勤講師 1 名を企業から招き、講義を開講している。

表1-1-2 専攻別教員数

	教授	准教授	計	学生数	教員一	客員	客員	計

岐阜大学連合創薬医療情報研究科 分析項目

	専任	兼務	専任	兼務			人当たりの学生数	教授	准教授	
創薬科学	1	6(1)	0	5(0)	12(1)	6	0.5	4(0)	2(0)	6(0)
医療情報学	1	8(2)	0	2(0)	11(2)	20	1.8	1(0)	0(0)	1(0)
小計	2	14(3)	0	7(0)						
計		16(3)		7(0)	23(3)	26	1.1	5(0)	2(0)	7(0)
女性教員比率		18.8%		0.0%	13.0%					

平成 27 年 5 月 1 日時点の数であり、数値は人数を示す

( )は女性教員数で内数

(出典: 担当事務からの報告)

### (3) 入学者選抜の状況

本研究科では、表 1 - 1 - 3 に示すアドミッション・ポリシーを定め、ホームページ、応募要項などで日英表記により広く受験者に対し公表・周知している。入学者選抜試験においては、アドミッション・ポリシーに沿い、多様な学生の受入を可能とするために、一般、社会人及び外国人留学生を同一の試験方法によって選抜している。試験科目は、英語、専門科目及び面接で、英語及び専門科目については、試験問題及び解答用紙に英語を併記することで留学生に対応している。面接試験では英語による質疑応答も行っている。

また、平成 26 年度からは、広範な領域の学生を受け入れるために、面接による人物評価や英語力の判定を重視した入学者選抜を行っている。

表 1 - 1 - 3 連合創薬医療情報研究科のアドミッション・ポリシー

<p>教育研究上の目的</p> <p>本研究科は、創薬をテーマとし先進的な生物・生命科学を基本とした学際領域の教育研究を行い、高度な専門性と先見性、柔軟な発想を有し、21 世紀の医療、医学、生命科学を担う最先端の領域で活躍できる人材の育成を目的とする。</p> <p>求める学生像</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・創薬に関する高度な専門的知識の修得と専門的研究の推進に対して高い意欲を持つ人。</li> <li>・安全・安心な医療を提供するために必要となる高度専門知識の修得と研究の推進に対して高い意欲を持つ人。</li> <li>・個別化医療を展開するために必要となる実践的な研究領域を開拓しようとする高い意欲を持つ人。</li> </ul>
--

(出典: 研究科ホームページ (URL <http://www.souyaku.gifu-u.ac.jp/entrance/policy/>))

これらに加え、平成 22 年度入学試験から秋季入学(募集人員: 社会人及び外国人留学生を含む若干人)を実施しており、さらに多様な学生確保が可能となった。

表 1 - 1 - 4 に専攻別募集人員を、表 1 - 1 - 5 に入学試験実施状況を、表 1 - 1 - 6 及び表 1 - 1 - 7 に社会人と留学生の入学状況を示す。社会人、留学生はほぼ経常的な入学者の確保が実現しており、平成 27 年 5 月 1 日現在の社会人在籍者は 15 人で在学者 26 人に対して 57.7% の在籍率、留学生の在籍者は 4 人で在籍率は 15.4% である。

表 1 - 1 - 4 専攻別募集人員

専攻名	募集人員(一般選抜)	募集人員(秋季入学)
創薬科学専攻	3 人	若干人
医療情報学専攻	3 人	若干人
計	6 人	若干人

(出典: 研究科募集要項)

表 1 - 1 - 5 入学試験実施状況

年度	専攻名	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	過欠員
22 年度	創薬科学	3	2	2	2	1	2

岐阜大学連合創薬医療情報研究科 分析項目

	医療情報学	3	2	2	2	2	1
	計	6	4	4	4	3	3
23 年度	創薬科学	3	3	3	3	3	0
	医療情報学	3	4	3	3	3	0
	計	6	7	6	6	6	0
24 年度	創薬科学	3	2	2	2	2	1
	医療情報学	3	3	3	3	3	0
	計	6	5	5	5	5	1
25 年度	創薬科学	3	1	1	1	1	2
	医療情報学	3	8	8	8	8	5
	計	6	9	9	9	9	3
26 年度	創薬科学	3	4	4	4	4	1
	医療情報学	3	2	2	2	2	1
	計	6	6	6	6	6	0
27 年度	創薬科学	3	2	2	2	2	1
	医療情報学	3	5	5	5	5	2
	計	6	7	7	7	7	1

単位は人

(出典: 担当事務からの報告)

表1-1-6 社会人入学状況(秋季入学を含む)

	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度
創薬科学	1 (1)	1 (3)	2 (2)	0 (1)	0 (4)	0 (2)
医療情報学	1 (2)	3 (3)	3 (3)	4 (8)	0 (2)	4 (5)
計	2 (3)	4 (6)	5 (5)	4 (9)	0 (6)	4 (7)

( )は全入学者数であり、数値は人数を示す

(出典: 担当事務からの報告)

表1-1-7 留学生入学状況

	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度
創薬科学	0 (1)	1 (3)	0 (2)	0 (1)	0 (4)	0 (2)
医療情報学	1 (2)	1 (3)	0 (3)	4 (8)	1 (2)	0 (5)
計	1 (3)	2 (6)	0 (5)	4 (9)	1 (6)	0 (7)

( )は全入学者数であり、数値は人数を示す

(出典: 担当事務からの報告)

表1-1-8には、最近6年間の入学定員に対する充足率について示す。平成22年度と平成24年度では定員は未充足であるが、それ以降は順調に入学者を確保している

表1-1-8 入学定員に対する充足率(秋季入学を含む)

	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	平均
創薬科学	33.3%	100.0%	66.7%	33.3%	133.3%	66.7%	72.2%
医療情報学	66.7%	100.0%	100.0%	266.7%	66.7%	166.7%	127.8%
研究科全体	50.0%	100.0%	83.3%	150.0%	100.0%	116.7%	100.0%

(出典: 担当事務からの報告)

#### (4) 学生への支援に関する取組

学生に対しては、主に指導教員と教務厚生委員長が個別の相談に応じ、さらに連合創薬係事

## 岐阜大学連合創薬医療情報研究科 分析項目

務職員がガイダンス及び必要時に対応している。これに加え、23年度から2、3年生を対象に教務厚生委員長が個別に面談を実施している(23年度15人、24年度4人、25年度3人、26年度7人、27年度9人に実施)。個々の授業では、オフィスアワーにおける相談・助言のほか、電子メールによる質疑応答が可能となっている。

留学生に特化した支援として、宿泊施設の斡旋や指導教員、チューター、事務職員および国際企画課と協力した生活指導、教育指導などの支援体制を充実させている。チューターは、留学生の指導教員より委嘱された日本人学生が担当し、留学後1年間、日常生活、履修、研究活動等についてサポートを行っている。

表1-1-9に奨学金受給状況、表1-1-10に入学料・授業料免除状況を示す。平成22年度からは本学独自の奨学金である岐阜大学応援奨学生制度が実施され、本研究科からも毎年1名が奨学金を受けている。さらに、平成23年度には連合創薬医療情報研究科学生奨学金制度を開始し、一般学生入学者2名に、平成24年度以降も3件の支援を行った。民間機関等からの留学生への奨学金についても6年間を通して11件の受給がある。

表1-1-9 奨学金受給状況

年度	日本学生支援機構第1種	日本学生支援機構第2種	留学生に対する企業等の奨学金
22年度	0	0	1
23年度	1	0	3
24年度	0	0	2
25年度	0	0	2
26年度	3	0	2
27年度	3	1	1

単位は人

(出典:担当者からの報告)

表1-1-10 入学料・授業料免除状況

年度	入学料	前期授業料		後期授業料	
		全額	半額	全額	半額
22年度	0(0)	0(0)	6(2)	0(0)	6(2)
23年度	2(2)	4(2)	1(1)	4(2)	2(2)
24年度	0(0)	2(2)	1(0)	3(3)	1(0)
25年度	1(1)	5(4)	1(0)	6(5)	1(0)
26年度	1(1)	8(6)	1(0)	2(1)	1(0)
27年度	0(0)	4(2)	4(0)	4(2)	4(0)

( )は内数の留学生数であり、数値は人数を示す

(出典:担当事務からの報告)

### (5) 教員の教育力向上に向けた取組

本研究科にFD小委員会を設置し、講師、内容等について協議した上で毎年FDを開催している。教員の英語教育能力の向上を目指した内容が多いが、それ以外にも「教育の質保証と評価」や「国際的に通用するシラバス」、「レギュラトリー・サイエンス」などのテーマについて開催してきた(表1-1-11)。これらのFDにはいずれも、本研究科の多くの教員が出席している。

表1-1-11 FD開催状況

開催日時	講師	テーマ・内容

岐阜大学連合創薬医療情報研究科 分析項目

22 年 度	平成 23 年 1 月 18 日(火) 13:00 ~ 15:00	日本大学医学部 医学教育企画・推進室 助教 押味貴之 氏	ライフサイエンス英語論文の書き方ワークショッ プ 「英語でのアカデミックライティングの基本を確 認しよう」
23 年 度	平成 23 年 10 月 1 日(土) 15:10 ~ 16:40	日本大学医学部 医学教育企画・推進室 助教 押味貴之 氏	ライフサイエンス英語論文の書き方ワークショッ プ 「ゼロから学ぶ出版倫理の基本」
24 年 度	平成 24 年 6 月 26 日(火) 9:30 ~ 11:00	本学学長補佐 (経営戦略・評価・広報担当) 応用生物科学部 教授 志水泰武 氏	「教育の質保証と評価」
	平成 24 年 10 月 6 日(土) 15:10 ~ 16:40	日本大学医学部 医学教育企画・推進室 助教 押味貴之 氏	ライフサイエンス英語論文の書き方ワークショッ プ 「冠詞 THE の使い方」
25 年 度	平成 25 年 10 月 5 日(土) 17:30 ~ 19:00	日本大学医学部 医学教育企画・推進室 助教 押味貴之 氏	「学術高等発表における英語」
26 年 度	平成 26 年 10 月 4 日(土) 15:10 ~ 16:40	日本大学医学部 医学教育企画・推進室 助教 押味貴之 氏	「明日から使えるネットを使った英語表現力の指 導方法」
	平成 26 年 12 月 16 日(火) 14:00 ~ 16:20	米国 東ワシントン大学 教授 井上敦司 氏	「国際的に通用するシラバスの作り方」
	平成 26 年 2 月 10 日(火) 17:00 ~ 18:30	PMDA 関西支部 支部長 田村敦史 氏	「臨床研究の推進に求められる レギュラトリー・ サイエンスの理解」
27 年 度	平成 27 年 7 月 31 日(金) 10:30 ~ 12:00 13:00 ~ 17:30	PMDA 関西支部 支部長 田村敦史 氏	「レギュラトリー・サイエンス」
	平成 27 年 10 月 3 日(土) 14:40 ~ 16:10	日本大学医学部 医学教育企画・推進室 助教 押味貴之 氏	「医学・薬学論文執筆の指導法と有用なツール」

(出典:担当事務からの報告)

(6)教育プログラムの質保証・質向上に向けた取組

教育活動を改善するため、教務厚生委員長による学生インタビューや修了時アンケート、学外実習における受入れ担当者からの評価報告書などにより、教育に関する意見や要望の収集を行っている。これらの意見等は教務厚生委員会にて集約するとともに、必要に応じて対策を検討し、教育の改善につなげている。また、平成 24 年度から全学的に実施しているリフレクションペーパーを用い、各教員が各授業において特に工夫・配慮・考慮したこと、次年度に向けて授業改善などを考えていることなどを自己評価し、それを研究科としてとりまとめ共有することで、教育の改善に向けた体制を整備した。さらに、同年度には本学名誉教授、他大学教授、企業幹部からなる外部評価委員会や企業との懇談会を開催し、学外から本研究科に対する評価や意見を受け、これらを参考に改善を進めた。

このような研究科全体としての教育活動について、平成 24 年度に独自の自己点検・評価を行い改善すべき事項等を把握するとともに、その結果をホームページに公表した。

以上の取組に加え、研究進捗状況等報告書による学位取得に向けた進捗状況の把握及び評価(平成22年度)、外国人招聘講師による講義の開講(平成23年度)、実践英語力UP講座の開講(平成23年度)など、教育活動の改善を実施した。

**(水準)** 期待される水準を上回る。

**(判断理由)** 本研究科の教育組織は、岐阜大学の複数部局と岐阜薬科大学に加え、多くの連携機関からの教員で構成されており、多様な専門領域を包含した教育が実現されている。また、秋季入学の実施や入学試験の改正等によって、社会人学生や留学生を積極的に受け入れている。学生支援についても、学業や精神面の支援を行うと共に、経済面や留学生の支援についても進めてきている。こうした取り組みにより、社会人学生や留学生の入学と在学を継続的に確保している。

一方、FDの開催による教員の教育力向上に取り組むとともに、教務厚生委員長による学生インタビューや修了時アンケートの実施などにより教育活動の改善を図り、実践英語力UP講座の開講など新たな教育活動に取り組むことで、内部質保証システムを機能させて教育の質の改善・向上を図っている。

以上のことより、本研究科の教育実施体制は高い水準に達しており、取組や活動、成果の状況が優れていることから、想定する関係者の期待を上回ると判断する。

**観点 教育内容・方法**

**(観点に係る状況)**

**(1)体系的な教育課程の編成状況**

本研究科では、具体的なディプロマポリシーとカリキュラムポリシーを制定し(表1-2-1、表1-2-2)、学生便覧とホームページに掲載している。また、入学時ガイダンスと後学期ガイダンス時には、学生が達成すべき学力、能力や養成しようとする人材像等について明示、解説し、教員と学生の双方がその内容を確認している。

表1-2-1 ディプロマポリシー

<p>本連合創薬医療情報研究科は創薬と医療情報というテーマの下に岐阜大学と岐阜薬科大学が連合し、工学、薬科学、医学の3種類の博士の学位を授与することができる特徴をもち、以下のような修了生を輩出する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 創薬・医療情報に関する分野の高度専門知識を理解している。</li> <li>(2) 創薬・医療情報分野の課題を解明、検証し、応用することができる。</li> <li>(3) 学際的な分野への対応ができる応用力を持つ。</li> <li>(4) 国際社会、地域社会など社会情勢に関心を持ち、物事に対応できる。</li> <li>(5) 正しい生命および職業倫理観を備えている。</li> <li>(6) 所属組織において、リーダーシップと協調性を発揮できる。</li> <li>(7) 国内外で幅広くコミュニケーションできる。</li> </ol>
--

(出典: 研究科ホームページ URL <http://www.souyaku.gifu-u.ac.jp/about/003policy/>)

表1-2-2 カリキュラムポリシー

<p>医学・薬学・工学の学問分野を中心に学びながら、人々の健康で豊かな生活の維持発展に創薬と医療情報の面で専門的に貢献できる高度な能力を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 本研究科の教育研究対象として設定した創薬と医療情報を研究する授業科目を履修することによって、常に新しい創薬・医療情報に関する知識を学ぶことができる。</li> <li>● 二つの専攻を互いに有機的に繋ぐ教育研究領域を設けて、新しい課題を考えて発見し、判断・検証・解決する方法を学ぶことができる。</li> <li>● 各学問分野と研究方法の発展を学びながら、医薬分野と他の工学・自然科学分野との学際的領域の新しい研究の方法を修得することができる。</li> <li>● 社会や産業の抱える様々な現代的問題を適切に把握し、生命倫理や職業倫理を学んで正しい判断をすることがで</li> </ul>
---



- きる。
- 国際的にも様々な人々とコミュニケーションする力を養い、リーダーシップと協調性をもって国際的に活躍できる方法を修得することができる。

(出典: 研究科ホームページ URL <http://www.souyaku.gifu-u.ac.jp/about/003policy/>)

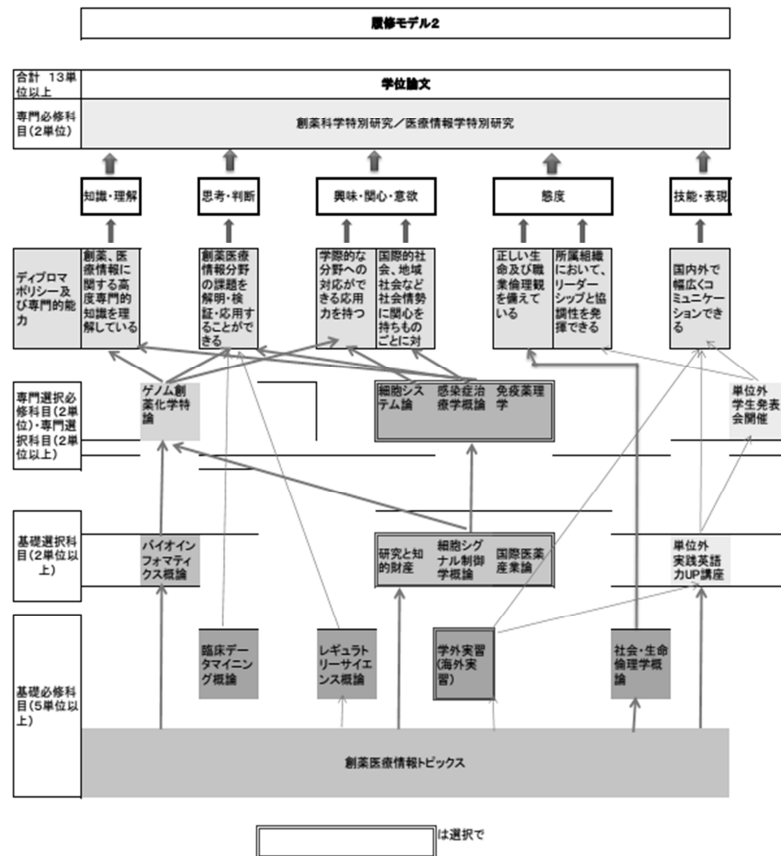
研究科の専門領域は工学・薬学・医学の各分野が横断的に融合した内容であり、表1-2-3に示すように、工学、薬科学、医科学の3種類の学位を授与している。両専攻の教育研究領域は別添資料1-2-1に示すとおりであり、これらの領域に沿った授業科目が開設されている。修了所要単位は、両専攻とも13単位であり、本研究科の学位審査委員会が行う博士論文の審査及び最終試験に合格することを修了要件としている。

表1-2-3 連合創薬医療情報研究科において授与する学位の名称

専攻名(Division)	授与する学位(Degree)	
創薬科学専攻 (Medicinal Sciences Division)	博士(工学) (Doctor of Philosophy in Engineering)	博士(薬科学) (Doctor of Philosophy in Pharmaceutical Science)
医療情報学専攻 (Medical Information Sciences Division)	博士(薬科学) (Doctor of Philosophy in Pharmaceutical Science)	博士(医科学) (Doctor of Philosophy in Medical Science)

(出典: 研究科ホームページ URL <http://www.souyaku.gifu-u.ac.jp/about/006kamoku/>)

養成する人材に必須な素養を確実に教授するために、研究科共通の科目を設定し、基礎必須科目として先端トピックスに関する科目や臨床応用に関連した科目を配している(別添資料1-2-2)。また、様々な分野からの出身学生に対応するために、基礎選択科目の中に基礎的技術の習得を目指す複数の科目を設定し、基礎力の底上げを図っている。各専攻に配された専門科目は多様であるため、学生が的確に科目修得を行えるよう各専攻のモデルコアカリキュラム(履修モデル)を複数例作成し、ホームページで公開している(図1-2-1、別添資料1-2-3)。



(出典: 研究科ホームページ)

図1-2-1 履修モデルの1例

(2) 社会のニーズに対応した教育課程の編成・実施上の工夫

社会人学生のため、平日は基本的に18時から21時に開講し、土曜日も集中講義で9時から17時に開講している。さらに、医用工学概論及び医用分子システム工学特論では、e-learningを実施し、遠隔地においても履修が可能な環境を整備している。また、社会人学生を対象にした長期履修制度を設け、最大で修業年限の倍の期間(6年)の履修を可能としている。表1-2-4に示すように、社会人学生の58%が長期履修を申請している。

表1-2-4 長期履修状況(履修期間別)

長期履修期間	4年	5年	6年	計	社会人学生数	社会人学生の長期履修率
創薬科学	1	0	0	1	1	100.0%
医療情報学	1	3	2	6	11	54.5%
計	2	3	2	7	12	58.3%

平成27年10月1日時点

数値は人数

(出典:担当事務からの報告)

(3) 国際通用性のある教育課程の編成・実施上の工夫

国際通用性のある教育研究者の養成のため、海外派遣実習を実施し、平成22年度はアメリカ国立衛生研究所及びFox・Chase癌センターへ各1名、平成24年度はノースカロライナ大学チャペルヒル校へ1名の学生を派遣した。さらに、アメリカ合衆国での国際学会発表にも、平成24年度と25年度に学生を派遣している。また、平成23年度からは、外部講師を招き、英語演習及び英語による論文作成法の特別講義からなる「実践英語力UP講座」を開講した。単位化はされていないものの、その後、毎年の開講が実現している。

(4) 学生の主体的な学習を促すための取組

自立した研究者の養成に向けたトレーニングの一環として、一般学生を全員RAとして採用している(表1-2-5)。さらに、23年度からは産業界等への就職時に必要とされるマネジメント能力の養成のため、実務者による講義を2科目開講した(医薬バイオ産業論、国際医薬産業論)。

表1-2-5 リサーチアシスタント(RA)採用実績

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
人数(人)	6	5	3	5	10	9
金額(千円)	1,716	1,716	1,029	1,664	2,512	3,088

(出典:担当事務からの報告)

学生の意欲向上および学習成果の自己点検のため、平成22年度から研究成果発表会を実施し、平成23年度からは学生が発表会の企画運営を行い、各教員はポスターを交えて学生から研究内容の説明を受けた後、討論を行っている(表1-2-6)。また、表1-2-7に示すように、海外派遣実習や国際学会発表の旅費支援を行っており、学生の意欲向上と国際通用性を高めている。

表1-2-6 学生研究成果発表会

開催年月日		ポスター発表数(件)			
		3年次	2年次	1年次	計
22年度	平成23年3月15日	4	6	0	10
23年度	平成23年10月1日	9	2	1	12
24年度	平成24年10月6日	4	5	1	10
25年度	平成25年10月5日	3	2	3	8

岐阜大学連合創薬医療情報研究科 分析項目

26年度	平成26年10月4日	2	2	4	8
27年度	平成27年10月3日	2	3	3	8
計		24	20	12	56

(出典:担当事務からの報告)

表1-2-7 学生への旅費支援

	海外派遣実習		国際学会発表		計	
	件数	金額(円)	件数	金額(円)	件数	金額(円)
22年度	2	950,943	0	0	2	950,943
23年度	1	300,000	0	0	1	300,000
24年度	1	195,710	1	178,670	2	374,380
25年度	0	0	1	236,340	1	236,340
26年度	0	0	0	0	0	0
27年度	0	0	1	252,239	1	252,239
計	4	1,446,653	3	667,249	7	2,113,902

(出典:担当事務からの報告)

**(水準)**期待される水準を上回る

**(判断理由)**公表されているディプロマポリシーとカリキュラムポリシーに従い、3種類の学位の申請を可能にするカリキュラムを設定し、各専攻のモデルコアカリキュラムを用いて履修の明確化を図っている。多様な分野からの出身学生への対応としては、基礎的技術の科目を開講し基礎力を養成している。さらに、国際通用性のある教育研究者の養成のために、海外派遣実習を実施しており、派遣学生の国際的視点の向上に少なからず貢献できた。

以上のことから、取組や活動、成果の状況が優れており、想定する関係者の期待を上回ると判断する。

分析項目 教育成果の状況

観点 学業の成果

(観点に係る状況)

(1) 学位授与の状況

表2-1-1のとおり成績評価及び基準を定め、電子シラバスには試験・成績評価の基準及び方法の項目を設けて公表している。修了要件は、岐阜大学大学院連合創薬医療情報研究科規程において定め、大学院便欄で学生に周知している。また、学位授与方針や学位論文に係る評価基準は、大学院便覧及び在学生ガイダンスで学生に周知している。これに加え、表2-1-2に示すとおり、「博士の学位」に係る学位論文についての取扱い」として学位取得に必要な論文数及びインパクトファクターを定め、それに基づき適正に学位審査を行っている。一方、学生の適性等の判断とそれに伴う学位論文テーマ等の修正変更を支援する方策として、入学時には「研究題目届」、学年末には「研究進捗状況等報告書」を学生に提出させ、研究指導管理を徹底している。

表2-1-1 成績評価の基準及び方法

(成績の評価及び基準)			
第4 授業科目の成績は、実施する試験の結果に基づき、次の表に掲げる基準により判定し、秀、優、良及び可を合格とする。			
評語	評定	評価基準点	評価基準
秀	S	90点以上	目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果を挙げている
優	A	80点以上 90点未満	目標を十分に達成している
良	B	70点以上 80点未満	目標を概ね達成している
可	C	60点以上 70点未満	目標を最低限達成している
不可	D	60点未満	目標を達成していない

(出典:岐阜大学大学院連合創薬医療情報研究科における履修方法等の取扱い)

表2-1-2 学位取得に必要な論文数及びインパクトファクター

(課程による学位)
<p>岐阜大学大学院連合創薬医療情報研究科における博士の学位に関する細則第3条の規定に基づき提出する学位論文の取扱いは、次のとおりとする。</p> <p>1 学位論文は、単著とし、その言語は和文又は英文とすること。</p> <p>2 学位論文の基礎となる学術論文についての判定基準は、以下のとおりとする。</p> <p>一 学位論文の基礎となる学術論文を2編以上学会誌等に発表したもの。(印刷中のものを含む)</p> <p>(1) 1編は筆頭著者であること。</p> <p>(2) レフェリーシステムのある国内欧文誌・外国誌に掲載されたものであること。</p> <p>(3) インパクトファクターの合計が1.5程度以上であること。</p> <p>(4) 1編は在学中に研究したものであり、連合創薬医療情報研究科の所属であることが明記されているもの。</p> <p>二 学位論文の基礎となる学術論文を1編学会誌等に発表したもの。(印刷中のものを含む)</p> <p>(1) 筆頭著者であること。</p> <p>(2) レフェリーシステムのある国内欧文誌・外国誌に掲載されたものであること。</p> <p>(3) インパクトファクターが1.5程度以上であること。</p> <p>(4) 在学中に研究したものであり、連合創薬医療情報研究科の所属であることが明記されているもの。</p>

(出典:「博士の学位」に係る学位論文についての取扱い)

平成22年度から現在までに27名が修了して学位を取得し、3名が単位修得退学後学位を取得している。平均の単位修得数は15.1単位となっている(表2-1-3)。修了までに修得しなければならない単位数は13単位であり、修了者は積極的にかつ広範囲に学習を進めていることが示唆される。本研究科では、1年次で基礎的専門知識を学び、2年次以降ではその基礎の上に個別の研

## 岐阜大学連合創薬医療情報研究科 分析項目

究課題を探究させるという教育・研究指導がなされているため、このことも良好な単位修得と学習の成果につながっていると考えられる。

表2-1-3 学生の状況(修了年度別)

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	計
修了者(人)	6	6	6	3	3	3	27
単位取得退学者(人)	1	2	1	0	0	3	7
学位取得者(人)	7	7	7	3	3	3	30
うち、論文博士	1	0	0	0	0	0	1
修了者平均単位数	16.2	14.7	14.2	18.3	14.7	13.3	15.1

(出典:担当事務からの報告)

別添資料2-1-1には、本研究科修了者の学位論文題目と基礎となる学術論文が掲載された論文誌のインパクトファクターを示した。これら学位論文に関わる研究成果は、全て査読付きの国際雑誌に投稿され、受理・掲載がなされている。また、掲載論文のインパクトファクターの平均は3.57に達しており、その多くが学術的にも十分な価値を有する研究である。

### (2) 学生の学会発表等の状況

本研究科では、在学中に少なくとも1件の学会発表を行うことや学位論文以外にも論文執筆を行うことを推奨、指導しており、学会参加に係る経費の支援も進めてきた。こうした取り組みにより、多くの学生が国内学会発表(表2-1-4)や国際学会発表(表2-1-5)を行い、それらの幾つかについては論文として出版公表されている(表2-1-6)。

表2-1-4 学生の学会発表(国内学会)

年度	発表学会名	発表者数(人)
22年度	第5回日本ケミカルバイオロジー学会年会	1
	日本薬学会第131年会	1
23年度	第2回イオン液体討論会	1
	日本薬学会第132年会	1
	平成23年度日本薬学会東海支部例会	2
24年度	第16回日本がん分子標的治療学会	2
	岐阜大学 RNA 創薬研究会 合同シンポジウム	1
	第133年回日本薬学会	2
	第3回岐阜薬科大学機能性健康食品(蜂産品)研究講演会	1
25年度	第71回日本癌学会	1
	第4回岐阜薬科大学機能性健康食品研究講演会	2
	岐阜大学 RNA 創薬研究会合同シンポジウム	1
	第134年回日本薬学会	2
	第17回日本がん分子標的治療学会	2
	第1回ファイトケミカル研究会	1
	第72回日本癌学会	2
平成25年度日本薬学会東海支部例会	1	
26年度	第135年回日本薬学会	2
	第18回日本がん分子標的治療学会	2
	第73年回日本癌学会	2
27年度	第19回日本がん分子標的治療学会	2
	第19回日本がん免疫学会	2
	第3回がん代謝研究会	1

岐阜大学連合創薬医療情報研究科 分析項目

	第 53 回日本癌治療学会	1
	第 74 回日本癌学会	2
	第 38 回日本分子生物学会年会	3
	第 88 回日本生化学会大会	3
	第 127 回日本薬理学会近畿部会	1
	第 36 回日本臨床薬理学会学術総会	1
	第7回育薬・創薬研究センター教育フォーラム	1

(出典:担当事務からの報告)

表2 - 1 - 5 学生の学会発表(国際学会)

年度	発表学会名	発表者数(人)
24 年度	Korea-Japan collaboration meeting	1
25 年度	International symposium on "Natural products in cancer prevention and therapy" 2 <sup>nd</sup> edition	2
	Korea-Japan collaboration meeting	2
	Stud Health Technol Inform. 2013	1
26 年度	Korea-Japan collaboration meeting	1
27 年度	13th Asian and Oceania Congress of Child Neurology 2015 (AOCCN 2015)	1
	APPS2015	1
	The Tenth AACR-JCA Joint Conference on Breakthroughs in Cancer Research	1

(出典:担当事務からの報告)

表2 - 1 - 6 学生の論文発表(学位論文以外)

年度	掲載誌名	IF
22 年度	Anaerobe	1.561
	Chemico-Biological Interactions	2.457
	Bioorganic & Medicinal Chemistry	2.9
	Microbiology and Immunology	1.227
23 年度	Chemical Communications	6.718
	Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters	2.650
	Biochemical and Biophysical Research Communications	2.595
	Journal of Pharmacological Science	2.419
	International Archives of Allergy and Immunology	2.24
	Biochemica et Biophysica Acta	4.663
	European Journal of Pharmacology	2.516
	Biological and Pharmaceutical Bulletin	1.811
Chemotherapy	2.108	
24 年度	Biological and Pharmaceutical Bulletin	1.828
	Parasitology	2.5
	Toxicology	3.681
	Journal of Infection and Chemotherapy	1.796
	Parasitology International	2.132
	Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters	2.338
25 年度	Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters	2.554
	The Journal of Physical Chemistry B	3.377

岐阜大学連合創薬医療情報研究科 分析項目

	Cellular Signalling	4.304
	医療ジャーナル	-
26 年度	Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters	2.42
	Computational Biology and Chemistry	1.595
	Lipids	2.353
	Drug Safety	3.408
27 年度	International Journal of Molecular Sciences	2.862
	Cancer Letters	5.621
	Biochemical and Biophysical Research Communications	2.297
	Structure	5.6
	PLoS One	3.234
	Nucleosides, Nucleotides and Nucleic Acids	1.018

(出典: 担当事務からの報告)

### (3) 修了生アンケートの状況

在学中及び修了時の学業成果を把握するために、学生の満足度や達成度などについて、平成22年度から27年度の修了生を対象にアンケート調査を行った(表2-1-7、表2-1-8)。アンケート調査の結果は、各年度ともに本研究科での学習や研究が修了生にとって有意義であったことを強く示している。また、学位論文の提出に至るまでの研究指導や学習・研究環境の評価も比較的良好であり、学生の満足度も高いと推定される。

表2-1-7 平成22年度修了生アンケート調査結果

設問	非常に あてはまる	かなり あてはまる	普通	全くあて はまらない
1 大学院教育(全般)は役に立ちましたか	55.6%	44.4%	0%	0%
2 高度の知識の習得に役に立ちましたか	77.8%	22.2%	0%	0%
3 科学的・論理的思考の獲得に役に立ちましたか	55.6%	33.3%	11.1%	0%
4 研究能力の獲得に役に立ちましたか	55.6%	44.4%	0%	0%
5 本研究科へ入学する前に比べて、修了後(又は現時点)で成長したと思いますか	55.6%	44.4%	0%	0%
6 大学院を修了(学位を取得)した又はする予定の段階となり、そのことに満足していますか	66.7%	22.2%	11.1%	0%
7 学位論文又はその基となる学術論文に満足していますか	37.5%	37.5%	25%	0%

(出典: 平成22年度修了生アンケート調査結果)

表2-1-8 平成23年度～27年度修了生アンケート調査結果

設問	非常によい	よい	どちらともいえない	よくない
1 大学院教育(全般)は有意義でしたか	77.8%	22.2%	0.0%	0.0%
2 大学院教育は高度の知識の習得に役立ちましたか	66.7%	22.2%	11.1%	0.0%
3 大学院教育は科学的・論理的思考の獲得に役立ちましたか	44.4%	55.6%	0.0%	0.0%
4 本研究科の大学院教育によって研究者として成長できましたか	55.6%	33.3%	11.1%	0.0%
5 学位論文またはその基となる学術論文に満足していますか	44.4%	44.4%	0.0%	11.2%

岐阜大学連合創薬医療情報研究科 分析項目

6	研究(博士論文)について積極的に取り組むことができましたか	55.6%	44.4%	0.0%	0.0%
7	一般学生に質問です:就職活動について積極的に取り組むことができましたか	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%
8	大学院に関する満足度はいかがですか	44.4%	55.6%	0.0%	0.0%
9	自学自習できる環境について	44.5%	22.2%	33.3%	0.0%
10	研究できる環境について	77.8%	11.1%	11.1%	0.0%
11	研究テーマ選択の自由度について	77.8%	22.2%	0.0%	0.0%
12	教員の研究指導について	77.8%	22.2%	0.0%	0.0%
13	希望する授業科目の提供について	55.6%	22.2%	22.2%	0.0%
14	シラパスの内容について	44.5%	33.3%	22.2%	0.0%
15	授業内容について	66.7%	11.1%	22.2%	0.0%
16	入学試験の実施方法について	44.4%	55.6%	0.0%	0.0%
17	教員とのコミュニケーションについて	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%
18	奨学金等の経済的支援について	37.5%	37.5%	25.0%	0.0%
19	図書館等の学習支援について	12.5%	50.0%	37.5%	0.0%
20	相談窓口等の環境について	37.5%	25.0%	37.5%	0.0%
21	教職員による就職支援について	42.9%	42.9%	14.2%	0.0%
22	メール等による連絡体制について	55.6%	33.3%	0.0%	11.1%
23	事務職員の対応について	55.6%	44.4%	0.0%	0.0%

(出典:平成23年度~27年度修了生アンケート調査結果)

(水準)期待される水準を上回る

(判断理由)修了生は必要十分な単位を修得しており、知識・技能等について確実な学習成果が得られていると考えられる。また、学位論文については、インパクトファクターなどから考慮すれば、学術的に高度な内容となっている。在学中の学会発表や論文執筆についても多くの学生が成果を上げており、修了生に対するアンケート結果からも学生の満足度が高いことが示されている。したがって、本研究科の人材養成に向けた教育活動は、十分な学習成果を上げていると判断できる。

以上のことから、取組や活動、成果の状況が優れており、想定する関係者の期待を上回ると判断する。

観点 進路・就職の状況

(観点到に係る状況)

(1)進路・就職の状況

本研究科で平成22年度から平成27年度までに学位を取得した一般学生16名のなかで、16名全員が新規に就職した。これは良好な就職率といえるが、就職の半数は非常勤職員として採用されているため、今後は常勤職員としての就職先の開拓が必要と考えられる(表2-2-1)。

表2-2-1 修了者の動向(単位修得退学者を含む)

修了年度		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	計
民間企業	社会人学生(人)	2	2	1	1	1	1	8
	一般学生(人)	2	0	1	0	0	0	3
大学、 研究所	社会人学生(人)	2	0	1	1	1	2	7
	一般学生(人)	0	2	1	0	0	2	5
医療機関	社会人学生(人)	0	0	2	0	0	1	3
	一般学生(人)	0	0	0	0	0	0	0



## 岐阜大学連合創薬医療情報研究科 分析項目

研究関連サー ビス	社会人学生(人)	0	0	0	0	0	0	0
	一般学生(人)	0	0	0	0	0	0	0
一時的な職	一般学生(人)	1	4	1	1	1	0	8
計		7	8	7	3	3	6	34

(出典: 担当事務からの報告)

就職先の多くは本研究科での学習や研究が直接に関連する職種であるが、中には特許事務所のように本研究科での学習成果を間接的に活用する異分野での就職例もみられる。今後は、修了者の多様な進路を開拓するために、こうした異分野での活躍も視野に入れた就職支援活動が必要である。本研究科では、学生が異分野の職種に対する認識を深めるため、国内の多様な企業等での学外研修を実施してきた(表2-2-2)。さらに、これに関連した企画として、平成23年10月には別添資料2-2-1に示すように女性研究者ロールモデル講演会が開催された。この講演会では、特許事務所に勤務する本研究科の修了生も特別講演を行い、異分野への就職の利点や問題点について活発な意見が交わされた。

表2-2-2 学外研修の実施先

年度	実習先
22年度	株式会社ツキオカ
23年度	愛知学院大学 薬学部 微生物学講座
24年度	株式会社 豊田中央研究所
	一丸ファルコス株式会社
27年度	株式会社 豊田中央研究所
	大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 生理学研究所
	愛知県がんセンター研究所

(出典: 担当事務からの報告)

### (2) 修了生及び就職先等へのアンケートの状況

平成24年には、本研究科の設立時からの修了生、就職先、および社会人学生の所属先を対象にアンケート調査を実施した。修了生の調査項目については、いずれも良好な評価を得た(表2-2-3)。就職先への調査では、回答例は少ないものの、職務に役立つ基盤的能力や専門的能力について特に高い評価を得た(表2-2-4)。社会人学生の所属先においても、本研究科終了後の応用力の向上や職務に有効な基盤的能力等についての評価が良好であった(表2-2-5)。

表2-2-3 修了生に対する調査結果

本研究科の教育研究 に対する満足度	満足	どちらかといえば満足	満足できない	なんともいえない	その他
	6人	4人	0人	0人	0人
本研究科の教育研究 に対する総合的評価	期待以上	期待どおり	期待どおりでない	なんともいえない	その他
	1人	6人	0人	0人	2人
本研究科での教育によ り身についたもの	専門的知識	国際性	応用力	コミュニケーション能力	その他
	9人	5人	2人	0人	0人
在学中にもう少し身に つけたかったもの	専門的知識	国際性	応用力	コミュニケーション能力	その他
	4人	7人	0人	0人	0人
就職先等における本研 究科の認知度	よく知られている	どちらかといえば 知られている	知られていない	わからない	-
	3人	0人	5人	0人	-

回答数: 10人

(出典: 修了生等に対するアンケート調査結果)

表2-2-4 就職先への調査結果

岐阜大学連合創薬医療情報研究科 分析項目

博士課程修了者に求めるもの、3つ	専門的知識	課題解明力	コミュニケーション力	-	-
採用した本研究科出身者が備えているもの	専門的能力	課題解明力	コミュニケーション力	柔軟性	その他
	4件	3件	3件	2件	0件
本研究科で身につけた基盤的能力、専門的能力は役立っているか	役立っている	どちらかといえば役立っている	役立っていない	わからない	その他
	4件	0件	0件	0件	0件
採用した本研究科出身者を見て、教育研究は満足できるものと考えられるか	満足できる	どちらかといえば満足できる	満足できない	なんともいえない	その他
	2件	2件	0件	0件	0件
本研究科の教育研究の総合的評価	期待以上である	期待どおりである	期待どおりでない	なんともいえない	その他
	0件	4件	0件	0件	0件
今後本研究科出身者を採用したいか	採用したい	人材によっては採用したい	積極的には採用しない	なんともいえない	その他
	0件	4件	0件	0件	0件

回答数：4件

(出典：修了生等に対するアンケート調査結果)

表2-2-5 社会人学生の所属先への調査結果

博士課程修了者に求めるもの、3つ	専門的知識	課題解明力	応用力		
本研究科修了者が増したもの	応用力	専門的能力	課題解明力	コミュニケーション力	その他
	3件	1件	1件	0件	0件
本研究科で身につけた基盤的能力、専門的能力は役立っているか	役立っている	どちらかといえば役立っている	役立っていない	わからない	その他
	3件	1件	0件	0件	0件
本研究科修了者を見て、教育研究は満足できるものと考えられるか	満足できる	どちらかといえば満足できる	満足できない	なんともいえない	その他
	1件	3件	0件	0件	0件
本研究科の教育研究の総合的評価	期待以上である	期待どおりである	期待どおりでない	なんともいえない	その他
	0件	3件	0件	0件	0件
今後本研究科出身者を採用したいか	採用したい	人材によっては採用したい	積極的には採用しない	なんともいえない	その他
	0件	3件	0件	0件	0件

回答数：4件

(出典：修了生等に対するアンケート調査結果)

**(水準)期待される水準にある**

**(判断理由)**本研究科の就職状況は一般学生について比較的良好であるが、非常勤職の比率が高いことは今後の課題である。就職先については、既に異分野への就職の実績も得られ、今後の就職先開拓に向けた取り組みも行なわれている。また、アンケート調査の結果、就職後の職場における評価や社会人の所属先における評価は高く、本研究科の教育活動が社会の期待に応えられていることが判った。

以上のことから、取組や活動、成果の状況は良好であり、想定する関係者の期待に応えていると判断できる。

「質の向上度」の分析

(1)分析項目 教育活動の状況

1. 連携機関との共同教育活動の実施

平成 23 年度に PMDA と、平成 24 年度に健康・栄養研究所と教育研究に係る連携・協力に関する協定書を締結し、連携機関と協力した教育活動の体制を充実した。この協定に基づき、両機関から客員教員を1名ずつ受け入るとともに、平成 24 年度から客員教員による講義「レギュラトリーサイエンス概論」、「レギュラトリーサイエンス特論」を開講し、特に「レギュラトリーサイエンス概論」は本研究科の基礎必修科目として全ての学生に履修を義務付けるなど、連携を実質化した教育活動を展開した(表3 - 1 - 1)。

これらは第2期中期目標期間から開始した取組であり、第1期に比べ、教育活動の質が向上したと判断する。

表3 - 1 - 1 レギュラトリーサイエンス講義の開講状況

	H24	H25	H26	H27
レギュラトリーサイエンス概論の受講人数(人)	4	0	16	6
レギュラトリーサイエンス特論の受講人数(人)	3	0	0	0

(出典:担当事務からの報告)

2. 社会人学生や外国人学生の受入促進

社会人や外国人留学生を積極的に受け入れるため、平成 22 年度から秋季入学を実施した。その結果、27 年度までの秋季入学生8人の全てが社会人と外国人留学生で占められることとなり、大きな成果が得られている(表3 - 1 - 2)。また、入試方法についても外国人への英語対応の工夫や、面接による人物評価を重視した試験を導入(平成 26 年度)した。こうした新たな取り組みに加え、従来からの手厚い学生支援体制の下で、社会人や外国人在学生の経常的確保が実現している。

様々な取組を行い社会人学生数及び外国人学生数を着実に増加させていることから、第1期に比べ、教育活動の質が向上したと言える。

表3 - 1 - 2 社会人学生や外国人学生の受入状況

	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
社会人学生数(人)	10	13	15	16	13	16	13	14	15
外国人学生数(人)	1	1	3	6	7	4	5	7	4
年平均社会人学生数(人)	12.7			14.5					
年平均外国人学生数(人)	1.7			5.5					

各年度5月1日時点の在学者数

(出典:学校基本調査)

(2)分析項目 教育成果の状況

1. 修了者の多様な進路を開拓・支援する取組

本研究科では、研究職以外の異分野への就職を開拓するために、国内の多様な企業での学生研修を実施してきた(表2 - 2 - 2)。その結果、平成 22 年には、実際に異分野での就職が実現している。また、平成 23 年度には、異分野就職者を本学に招いて講演会を開催し、新たなキャリアパスの紹介や開拓を推進してきた。

これらの取組の結果、第1期中期目標期間中よりも幅広い職種等へ修了生を送り出し(表3 - 2 - 1)、教育成果の質が向上したと判断できる。

表3 - 2 - 1 修了生の進路

修了年度		21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度
民間企業	社会人学生(人)	1	2	2	1	1	1	1
	一般学生(人)	0	2	0	1	0	0	0
大学、	社会人学生(人)	0	2	0	1	1	1	2

岐阜大学連合創薬医療情報研究科

研究所	一般学生(人)	0	0	2	1	0	0	2
医療機関	社会人学生(人)	0	0	0	2	0	0	1
	一般学生(人)	0	0	0	0	0	0	0
研究関連サー ビス	社会人学生(人)	1	0	0	0	0	0	0
	一般学生(人)	0	0	0	0	0	0	0

(出典:担当事務からの報告)

2. 修了生の学位授与論文から見る教育成果の向上

学位論文に関わる研究成果は、全て査読付きの国際雑誌に投稿され、受理・掲載がなされている。この掲載論文のインパクトファクターは、第1期中期目標期間(平成 20~21 年度)に比べ平均値が大きく向上しており、本研究科の教育成果が向上していると考えられる(表3-2-2)。

このことから、第1期中期目標期間に比べ、教育成果の質が向上したと判断できる。

表3-2-2 学位論文の基礎となる論文が掲載された論文誌のインパクトファクターの推移

	H20	H21	H22	H23	H23 論博	H24	H25	H26	H27
平均 IF 値	2.91	2.02	4.46	3.29	5.71	3.43	2.83	2.70	7.10
期別平均 IF 値	2.47		4.22						

平均 IF 値は、当該年度に基礎となる論文が掲載された論文誌のインパクトファクター値の合計を学位論文数で割った数値  
期別平均 IF 値は、第1期及び第2期における各年度の平均 IF 値の平均値

(出典:別添資料2-1-1及び現況調査表(教育)(平成 22 年6月)表4-1-9)